

「医療用テレメーターにおける生体信号伝送の双方向化等に関する調査検討会」の第1回会合を開催 ～ ICTによる患者のQOLと医療の質の向上を目指して ～



山本無線通信部長の挨拶

北陸総合通信局(局長 齊藤 一雅)は、平成24年7月4日(水)、当局において、「医療用テレメーターにおける生体信号伝送の双方向化等に関する調査検討会」の第1回会合を開催しました。

同会合では、冒頭、北陸総合通信局の山本無線通信部長から、「現在の医療用テレメーターは、平成元年に無線局免許が不要な特定小電力無線局として制度化され、医療機関で利用されているが、生体信号等の情報を双方向で伝送したいといった医療現場のニーズに応えることが困難であることから、本検討会では、新たな医療用テレメーターとして、双方向化等の高度化に向けた技術的条件等を検討し、医療の質の向上につなげていきたい」との挨拶がありました。

その後、調査検討会設置要綱及び審議スケジュールを満場一致で承認し、座長に福井大学医学部医療倫理・医療安全学領域教授 井隼 彰夫氏を、副座長に金沢大学理工研究域機械工学系教授 山越 憲一氏を選出しました。



左:井隼座長 右:山越副座長

引き続き、福井大学医学部の技術専門職 笠松 真吾氏から、「医療用テレメーターの現状と課題」、情報通信研究機構のディペンダブルワイヤレス研究室長 三浦龍氏から、「医療分野における電波利用の現状と課題」、富士通株式会社のテクノロジーフロンティア室 マネジャー 高木 淳一氏から、「国内における医療用テレメーターの高度化に向けた動向」について報告をいただき、それらを踏まえて、医療用テレメーターの双方向化等高度化に向けた熱心な議論が行われました。

本調査検討会は、平成25年3月までに報告書を取りまとめ、周波数の有効利用と患者のQOL(生活の質)及び医療の質の向上に資することとしています。

問い合わせ先:無線通信部企画調整課 076-233-4470

調査検討会の構成員は、次の方々です。



福井大学医学部 笠松技術専門職



情報通信研究機構ディペンダブル
ワイヤレス研究室 三浦室長



富士通株式会社テクノロジー
フロンティア室 高木マネジャー

- (座長)
- 井隼 彰夫 国立大学法人福井大学 医学部 医療倫理・医療安全学領域 教授
- 岡本 長 一般社団法人石川県臨床工学技士会 副会長
- 笠松 真吾 国立大学法人福井大学 医学部 技術専門職
- 狩俣 恭太郎 一般社団法人電波産業会 研究開発本部 次長
- 川尻 剛照 金沢大学附属病院 循環器内科 講師
- 小林 勝昭 日本光電工業株式会社 テレメトリ技術センタ
技術部 NGTPJ課長
- 高木 淳一 富士通株式会社 ネットワークイノベーションセンター
テクノロジーフロンティア室 マネジャー
- 三浦 龍 独立行政法人情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所
ディペンダブルワイヤレス研究室長
- 村木 能也 フクダ電子株式会社 品質保証本部 テクニカルフェロー
- 村田 智三 NECエンジニアリング株式会社 営業本部 エキスパート
- (副座長・作業部会長)
- 山越 憲一 国立大学法人金沢大学 理工研究域機械工学系 教授

～ICTによる患者のQOLと医療の質の向上を目指して～

(医療用テレメーターにおける生体信号伝送の双方向化等に関する調査検討)

現状

- 患者自身が通信エリアの中にいるのか外にいるのか知ることができない
- 患者の位置が把握できない
- 患者側端末では心電図の解析機能がないため、緊急時にアラームが出せない
- 患者の緊急時に、患者又は周囲の人に呼び掛けができない
- 常時、患者が装着した計測器の生体情報を無線送信し、ナースステーションでモニタリング

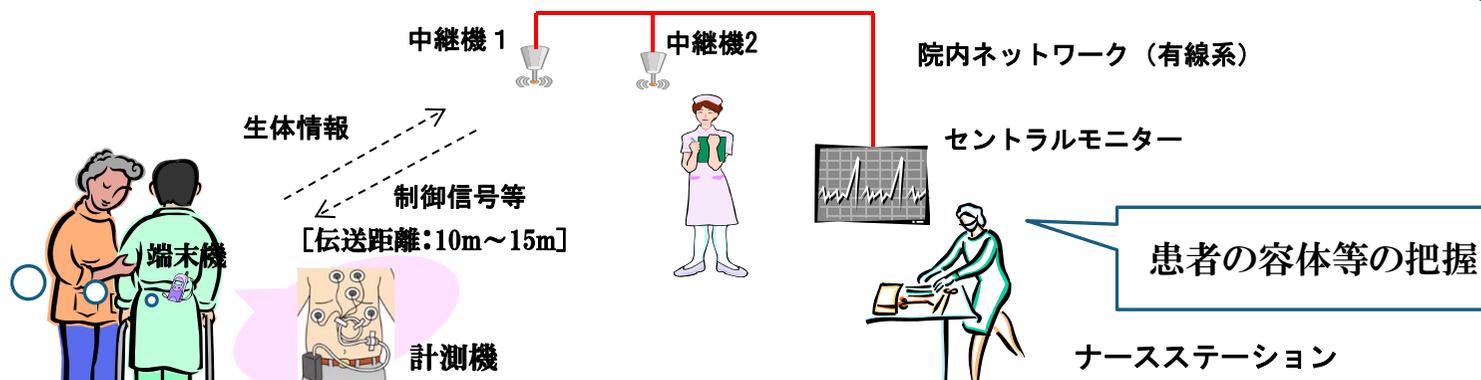
検討課題

- ・400MHz帯医療用テレメーターの高度化(双方向化等)

高度化

アラーム等

患者又は
周囲への
呼び掛け



患者のQOL (生活の質) 及び医療の質の向上に寄与